

mdbook-satysfi Documentation(-ja)

puripuri2100

概要

mdbook-satysfi のドキュメント

目次

1. mdbook-satysfi	2
2. 読み込むパッケージを指定する	3
3. HTML タグを変換する	4

1. mdbook-satysfi

mdbook-satysfi

mdbook-satysfi は markdown ファイルから HTML ファイルで構成された *book* を生成する Rust 製のソフトウェアである mdbook の拡張機能を提供するソフトウェアです。

mdbook-satysfi をインストールした状態で book.toml に `[output.satysfi]` という記述を追加して `mdbook build` を実行すると、book の内容と同じ内容の SATySFi のドキュメントファイルが生成されます。

実装

実装は Rust で行っています。

リポジトリは [puripuri2100/mdbook-satysfi](https://github.com/puripuri2100/mdbook-satysfi) です。

依存するもの

インストールには Rust と Cargo を必要とします。

また、生成されたドキュメントファイルを処理するためには `class-mdbook-satysfi` という SATySFi 用のライブラリの `v0.2.0` が必要であり、これのインストールには `satyrophos` が必要です。当然のことながら SATySFi も必要です。

インストール方法

Rust と Cargo をインストールした状態で

```
cargo install mdbook-satysfi
```

と行うことで最新版が手に入ります。

License

mdbook-satysfi は MIT ライセンスのもと公開されています。

2. 読み込むパッケージを指定する

読み込むパッケージを指定する

book.toml に以下のような内容を加えることで読み込むパッケージを追加することができます。

クラスファイルを指定すれば上書きすることも可能です。

```
[output.satysfi]
require-packages = ["base/int"]
import-packages = ["local"]
```

`require-packages` では string array を与えます。指定したパッケージが `@require:` で読み込まれます。

`import-packages` では、指定したパッケージが `@imports:` で読み込まれます。

3. HTML タグを変換する

HTML タグを変換する

markdown ファイル内には HTML タグを直接書くことができます。

ここではその HTML タグを処理するための方法を説明します。

ただし、mdbook-satysfi は markdown ファイルを一旦 HTML に変換した後に処理をする方法を取っているため、意図しないタグの衝突が起こる可能性があることに充分注意して下さい。

book.toml 内に以下のようなコードを書いてください。

```
[output.satysfi]
  [output.satysfi.html]
    [output.satysfi.html.hoge]
      command_name="fuga"
      children_type="inline"
      [[output.satysfi.html.hoge.attribute]]
        name = "src"
        type = "link option"
      [[output.satysfi.html.hoge.attribute]]
        name = "title"
        type = "inline"
```

`[output.satysfi.html.<tag-name>]` とすることで、そのタグが実際に書かれていた場合にその下にした設定が適用されます。

`command_name` はコマンドを出力する際にどうするかを設定します。デフォルトはタグ名です。

`children_type` は子要素がどうなるかを表しています。書かないと子要素は無視されます。与えられるのは

- `inline`
- `block`
- `inline list`
- `block list`
- `inline code`
- `block code`

だけです。

`[[output.satysfi.html.<tag-name>.attribute]]` とすることで属性を SATySFi コマンドの引数に変換することができます。

属性はこのテーブルに追加した順に渡されます。

`name` は属性の名前です。

`type` は属性の値がどうなるかを表しています。`* option` のとき、その属性がなかった場合は `None` になります。`option` が付いていないでその属性がなかった場合は実行時エラーとなります。

与えられるのは

- `string`
- `link`
- `int`
- `bool`
- `inline`
- `block`

とそれぞれの `option` です。

`link` とは相対パスのことで、画像タグの処理などに使うことを想定しています。与えられた相対パスをその原稿の書かれた `md` ファイルのパスと結合して SATySFi ファイルに書き出します。